

# 帯笑園保存会 会報

発行元 保存会事務局  
発行責任者 鈴木 邦親  
2017年1月25日  
No. 7

## 三十年度内に整備、開園予定

帯笑園保存会では、昨年夏頃から、市教委・文化振興課と帯笑園の整備について話し合いをしています。担当の文化財センターでは、二十九年度に臨春亭と蔵の耐震補強工事を行い、東側の道路（愛称名Ⅱ興国寺城通り）拡幅工事に合わせ、三十年度には塀などの外構と駐車場、トイレ等を整備して三十年度内の開園を目指すとのことです。道路工事を担当する道路建設課では、道路拡幅部分に生えている樹木を除去したい考えのようで、文化財センターも異論はないようです。

## 庭の風情や景観への配慮なし

帯笑園の庭は道路の拡幅により東西の幅が六〜七メートルも狭められる結果、道路際に生えている大きく育った樹木のほとんどが残りそうにありません。樹木の生い茂った帯笑園らしい景観が見られなくなるのが残念でなりません。帯笑園保存会では、道路工事に当たっては、道路拡幅が予定される部分に生えている樹木を活かして帯笑園の風情や景観の保持に配慮するよう何度も要望してきました。伐るのが惜しまれる樹木を園内に移植するか、あるいは歩道上に街路樹として残せないか提案をしていますが、そのような考慮は払われそうにありません。道路建設課でも文化財センターでも、帯笑園の景観や風情に配慮する姿勢が見られないのです。道路拡幅部分に建つ植松叟花園記の石碑を園内のしかるべき場所へ移すこともせず、石碑を覆う屋根の一部を切り取って済ませたい。塀のすき間から碑の側面が眺められ

ばよいとの、文化財保護担当課らしからぬ発言もありました。

## 保存会には管理を任せない！

整備が完了した後は、週五日開園し、庭木の管理に精通した民間企業に管理させるとし、保存会には任せないとの考えが示されました。原の歴史と文化を伝える国の登録文化財である帯笑園をどのように公開し活用するのか、運営方針が示されないうまま、管理方法が定められようとしています。松蔭寺をはじめ歴史のある寺々や神社、本陣跡、白隠産湯の井戸跡など帯笑園を含む旧原宿一帯は、原の人々にとつて大切な地域の資源であり、原の宝なのです。その重要な構成要素の一つである帯笑園の管理を原と無縁の営利企業が行うことになったら、私たち保存会はどのように振舞ったらよいのでしょうか。

## 地域の宝をどう活かすのか？

園内の臨春亭には、見学会や鑑賞会の際に皆さんにご覧いただいているとおり、皇族や貴賓をお迎えした際に使われた机やいす、掛軸や屏風その他の調度品が残されています。文化財センターでは、整備後にはこれらは一切不要だとして、耐震工事前片付けけるようにと植松氏に申し渡したそうです。帯笑園には、庭園の歴史とここを訪れた人々との交流の足跡を伝える文物が数多く残されているからこそ貴重であり、来園者に庭園と共にその歴史的・文化的な価値を知ってもらうことが開園の目的であるはずですが、保存会もそうした活用を望んで来ませんでした。

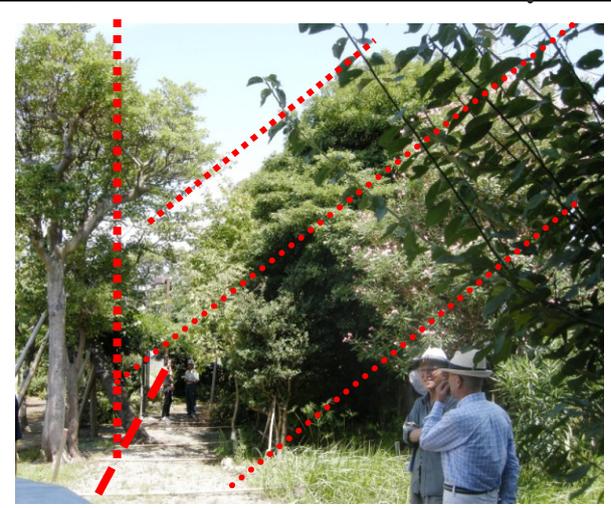
樹木が伐り払われるのを嘆く見学者たち



沼津市の歴史や文化を大切にすることを公約に掲げた大沼新市長の誕生に大いに期待したいのですが、新市長に御目通りが叶わないうちに担当課から示された考え方には失望を禁じ得ません。

## 樹木を残し、景観を保ちたい！

左上の写真は、空から見た帯笑園の庭の様子です。道路が広がって点線から下の樹木が伐られようとしています。下の写真は、庭を南側から北側に向かって眺めた様子です。点線から右側に生えている樹木が道路の拡幅により伐られてしまいます。この部分の大きく育った樹木がなくなれば、庭の景観は台無しになります。



保存会では、道路を広げる前に樹木を園内のほかの場所に移植したり、歩道上に残したりするよう、市に要望しています。伐り払われるのは何とも残念です。

## 平成二十八年の取り組みを振り返る

昨年六月に開催した総会での報告と一部重複しますが、昨年一年間の活動を振り返ってみました。

- 一月** 六日 牧島光春先生のご尽力により刊行した『帯笑園撮録』を栗原前市長に謹呈。市議会図書室、県立中央図書館、市立図書館、原地区センターなどに寄贈。
- 三十日 「桜草の育て方教室」を沼津さくらそう会代表真野契子様、武川利一会員のご指導をいただき、開催。
- 二月** 六日 牧島光春先生に講師をお願いし、『帯笑園撮録』を読む会を開催。好評につき第二回を三月十二日に開催。
- 四月** 二九日 第十三回桜草鑑賞会・琴の演奏会を開催。
- 岸駒筆蹲虎図を基にデザインしたTシャツを制作し、頒布を開始。
- 五月** 一八日 中日（東京）新聞が取材。
- 二十日 原小学校PTA広報部会が取材。
- 六月** 一七日 帯笑園保存会総会を開催。
- 一九日 佐野光弘氏ら伊豆羽蝶蘭会とニュータウン原自治会等の協力により初のウチョウラン展を開催。
- 二二日 原選出の四人の市議会会の下、服部新教育長に要望。
- 二六日 植松善夫元会長ご逝去。
- 七月** 一九日 文化財センターと施設整備について話し合う。以後六回にわたり市の考え方を聞く。
- 九月** 一日 保存会役員が駐車場の計画を現地検分。
- 十月** 一五日 久保田湖水先生ほかによる薩摩琵琶演奏会を開催。
- 二三日 日本経済新聞（静岡支局）が取材。
- 三十日 原コミ文化祭で岸駒筆蹲虎図Tシャツを販売。
- 十一月** 二一日 道路建設課との話し合い。翌月二一日にも開催。今年度中には樹木の移植は困難な見通しに。

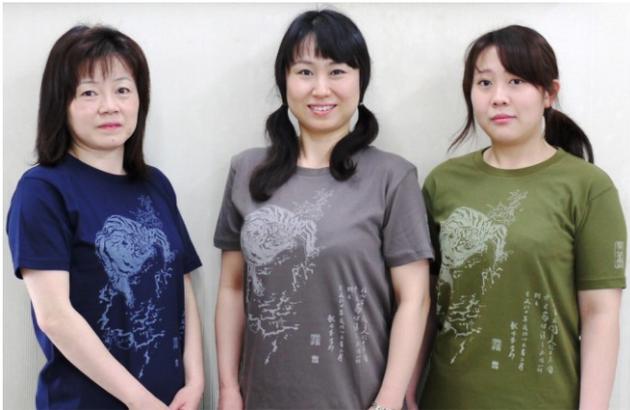
（飯田理一朗会員撮影・提供）



牧島先生を講師に「撮録を読む会」を開催



桜草の育て方教室を開催



岸駒筆蹲虎図のTシャツ(3色)を制作・頒布



蓮根の植え替え作業



恒例の桜草鑑賞会・琴の演奏会を開催



初のウチョウラン展開催



栗名月の下、薩摩琵琶演奏会を開催



東海道の小さな宿場町、原宿（静岡県沼津市）は富士山と駿河湾を望む絶好の景勝地にある。江戸時代後期には四百の民家、二十五の旅館が軒を連ねた。

一角には「街道一の名園」と呼ばれた庭園があった。その「帯笑園」を造ったのはこの地の大地主、植松家。「植物を集め、大事に育てよ」という家訓がありました。十三代目当主の植松靖博さんとは説明する。戦国時代に当地に移り住んだ植松家代々の当主が園芸を好んだ。街道に面した屋敷の裏に横五十、奥行き百五十以上の広大な敷地があり、サクラソウやボ



# 人々癒やした社交庭園

原宿（静岡県沼津市） 2016年（平成28年）7月3日（日）



植物豊かな帯笑園を案内する当主の植松靖博さん（右）も静岡県沼津市原で

タンノ鉢植え、外国の貴重な草花が所狭しと並んだ。江戸時代中頃の六代目季英は京都の画壇とも親交があり、訪れた人は鉢植えや書画の交換も楽しんだ。参勤交代の大名から伊勢参りの庶民まで、身分を超えて交流した社交庭園だった。明治中期の園内を描いた銅版画を見ると、富士山を見渡せる茶室や冬の温室、記念撮影の写真室まであり、にぎわいが伝わってくる。芳名帳などにはドイツ人医師シーボルトや、伊藤博文らの名も残る。シーボルトは著書の中で「今まで日本で見たものの中で、最も美しく最も



◎1890（明治23）年の銅版画「駿州原町植松帯笑園之図」に描かれた帯笑園 ◎盆栽や鉢植えが並ぶ明治～大正期の帯笑園（植松靖博さん提供）

「先祖が残したものがなくなってしまう」。二〇〇三年、植松さんは地元自治会と帯笑園保存会を発足させ、沼津市に整備と保存を要望。二年には国の登録記念物になった。一般公開は年一回。サクソウの鑑賞会や琵琶の演奏会も開かれる。月一回は見学者を受け入れ、歴史を解説する。「かの移動で疲れた殿様や旅籠に泊まる庶民が羽をのぼしていたのでは」と保存会副会長の沢敏夫さん（左）。「原宿の面影を残す貴重な場所」とも。植松さんも「茶室や絵の展示場所もつくれば」とにぎわい復活を願っている。

文・熊崎未奈  
写真・立浪基博

## 中日、日経、沼朝の各紙や 原小PTA機関紙が紹介

昨年本会が刊行した『帯笑園撮録』には、沼津御用邸に滞在した皇太子時代の天正天皇や昭憲皇太后がしばしば帯笑園を訪れたことが記されています。昨年沼津御用邸が重要文化財に指定されたことを報じた沼津朝日新聞は、皇族方が帯笑園を訪れることを大変楽しみにしていたことを伝えていきます。本号では同紙記事を抜粋して綴じ込みました。なお、『帯笑園撮録』は市立図書館、原地区センターに備わっていますので、お読みいただければ幸いです。

五月十八日には中日（東京）新聞沼津支局の熊崎記者が帯笑園取材に訪れ、上の記事が七月三日付けの同紙で報じられました。関東甲信越・中部の広範囲の読者に帯笑園のことが知られるようになったことを感謝する次第です。

また、五月二十日には原小学校PTA広報部会の皆さんが機関紙『葦』一六一号に帯笑園を紹介する企画で取材に訪れました。『葦』はカラー刷りで一ページを組み、帯笑園について紹介してくれました。地元の原小PTAならではの温かい思い入れが行間に滲む良い記事でした。原小の児童が親子で訪れてくれることを期待します。

十月二三日の見学会には日本経済新聞静岡支局の中村記者が取材に訪れ、十一月二日付け同紙静岡版で中綴裏面の記事が報じられました。掲載された記事を読まれた県内の同紙購読者の方々から問い合わせが相次ぎ、翌月の見学会には藤枝市など遠方からも参加をいただきました。